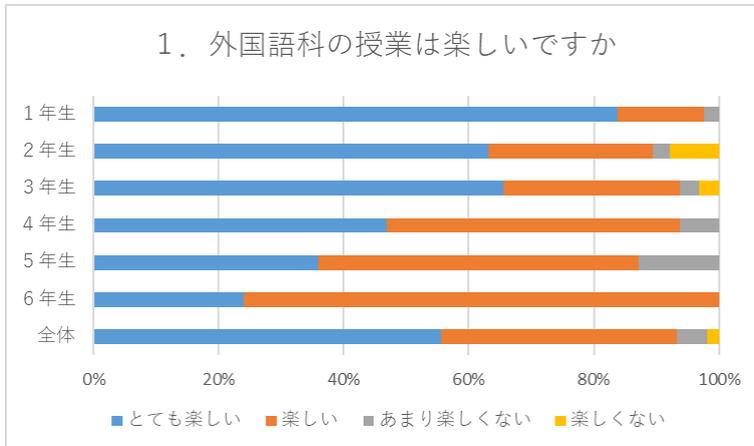


外国語科に関する調査結果（R7年度）

天草市立牛深小学校

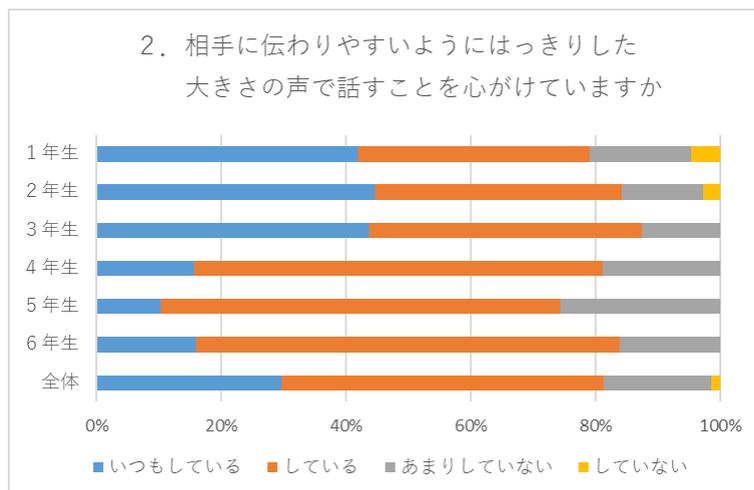
【児童へのアンケート結果】



【考察】

外国語の授業が楽しいと感じる児童の割合は、例年と比べてもほとんど変わっていないが、低学年に楽しさを感じていない子が数名いる。

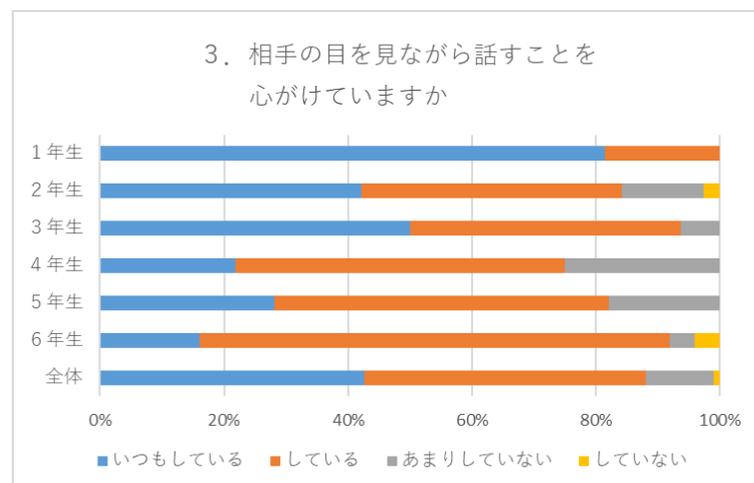
児童の実態に応じ、活動内容を修正していく必要も感じられる。



【考察】

相手意識をもった伝え方に関しては、全体の割合は向上している。学年間での差も少なくなっている。

相手意識を持った発表については、他教科の授業でも発表等の機会に意識させていく必要が感じられる。

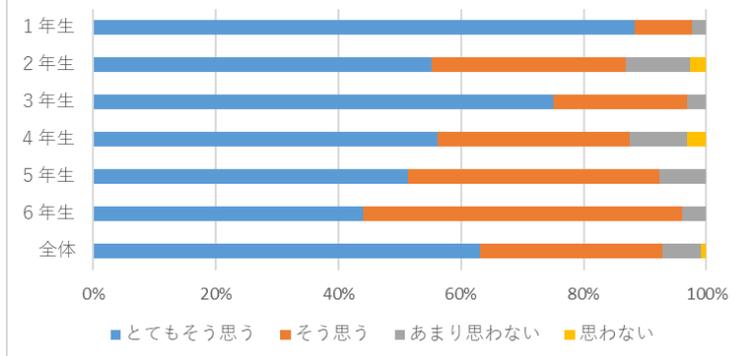


【考察】

相手を見ながら話すことを意識している児童の割合は10%程度向上している。

しかし、設問2と同様に、学年差は大きい。他教科の授業や学校生活のあらゆる場面でも、相手に伝わる表現・態度を意識する活動を継続し、身につけさせたい。

4. 英語をもっと話せるようになりたいですか

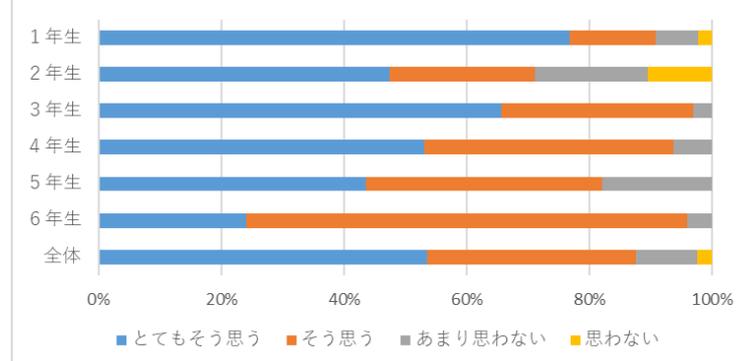


【考察】

全体的に高い数値ではある。5・6年生においては、昨年度と比べて大きくポイントが上昇している。

英語を話せるようになりたいという意欲を今後も維持するために、一人一人が成長を感じ、自信を持つための言葉かけや評価を行っていききたい。

5. 外国語科の授業は好きですか

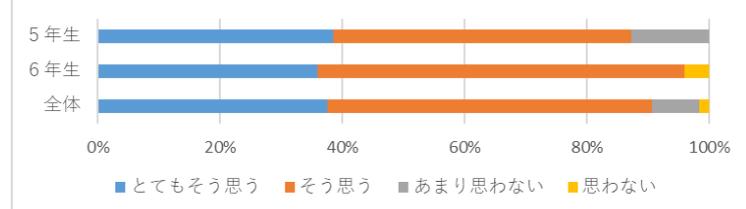


【考察】

全体的な割合は例年と大きく変わらないが、昨年度同様、低学年に「思わない」と感じる児童が多い。

授業回数が少ないため、活動内容に慣れず、苦手意識が先行しているかもしれない。授業以外で外国語に触れる機会を作っていきたい。

6. 外国語科の授業は分かりますか



【考察】

昨年度と比べ、「分かる」と答えている割合が大きく上昇している。特に6年生は、昨年度は50%まで達していなかったが、95%を越える結果となった。

今後も、児童の実態に即した授業づくりを行い、中学校へと繋げていきたい。

【学校関係者等による全般的な感想】

- ・校内に、英語に興味を持てるような掲示物がなされているが、傷みが見られたり、内容が変わっていなかったりしている。児童の興味を高めるためにも、定期的な見直しや新しいものの作成を考えてもらいたい。
- ・中学校と連携を図りながら、児童が中学校の授業内容と大きなギャップを感じないようにしてもらいたい。